

ブルーベリーのお仕事

柏崎小学校 四年 奈良 有里花

夏休みに、十和田のりそうきょうに行つて、ブルーベリーつみの仕事体けんをすることにしました。わたしはブルーベリーが大好きでよく食べるけれど、とったことがないので、行く前はわくわくとどきどきがまじった気持ちでした。

その日はとてもあつく、立っているだけでも息が苦しく、うでがじりじりするような日でした。他にも五人いて、一しよに仕事をしました。係の人が、

「今日みたいにあつい日は、とても大へんです。でも、ブルーベリーはすぐとらないと悪くなるから、毎日がんばって仕事をしています。」

と、首からかけたタオルであせをふきながら話していました。

いよいよしゅうかくの仕事です。広い畑にブルーベリーの木が百本い上りました。わたしのせよりちよつとだけ高い木に、小さくてかわいい実がついていました。思っていたよりかわい木だったので家の庭にも植えたいなと思いました。赤い実はまだとらないこと、むらさきの実をやさしくとることの二つのやくそくを守りながらしゅうかくしました。あつすぎてあせがだらだら出てきました。えだにくものすがかかっている所もありました。たくさんとり

たいという気持ちがあるのに、つらいな、いやだなとちよつと思つてしまいました。でも、仕事なのでがんばりました。

時間になり、みんなで小屋に集まりました。今度はせんべつ作業です。きずがあるもの、やわらかいもの、つぶれているものをよけました。たくさんあつたのに、売りものをよける分が少しになりました。みんなで一生けん命にとつたのに、すてるのがいっばいでびつくりしてしまいました。きれいな実を百グラムずつふるりにいれて完成です。わたしの仕事もぶじに終わりました。

ブルーベリーの仕事を体けんして、わたしは作もつを育てる人はすごく大へんなんだなと思えました。いつもおいしい野菜やくだものを育ててくれる人たちは、こんなあつい日でも、休まずにくるうしながら仕事をしていたんだなど初めて知りました。わたしはたった一時間半の仕事だったけれど、毎日毎日何時間も働いていてすごいと思えました。

ブルーベリーのことがもつと好きになつたので、またしゅうかく体けんをしたいと思えました。これから野菜やくだものを食べる時には、作っている人のことを考えて、のこさずおいしく食べようと思えます。